

2014年度 海外研修・研究等助成金 募集案内

一般財団法人 企業経営研究所について

一般財団法人企業経営研究所は、1982年7月に、スルガ銀行の創立90周年を記念し、地域経済社会の新しい方向を模索し、中堅・中小企業経営の健全な発展、育成に寄与することを目的として設立されました。

当研究所では、設立趣意に則り、地域の中堅・中小企業の実証的調査研究や企業の戦略的行動に必要な情報の提供などを通じて、企業の健全な発展と育成に努めてまいりました。さらに、1996年4月より、国際交流支援事業として次の4つの事業を追加しました。

- 1.外国人・研修研究等助成事業
- 2.海外研修・研究等助成事業
- 3.国際交流功労顕彰事業
- 4.国際交流活動助成事業

これらの事業を通じて、地域経済社会の国際化に対応する人材を育成するとともに、人、物、情報、技術、文化などの内外の交流活動を積極的に支援しております。

- 名 称 一般財団法人 企業経営研究所
- 設 立 1982年7月26日
- 理事長 野村 喜八郎
- 所 長 磯邊 剛彦(慶應義塾大学経営大学院 教授)
- 所在地 〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号
ミシマ・スルガビル4F

海外研修・研究等助成金について

この助成金は、海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を伝え、分かち合うことを志す方を対象に助成するものです。

近年の助成対象 研修・研究テーマ

- 英語での自己発信の醍醐味が伝わる作文教育技法の習得
 - ーユネスコ文学都市アイオワ・サマー・ライティング・フェスティバルの参加を通じてー
- いじめ・自殺予防教育における先進諸国の実践を学ぶ
- 世界のものづくり現場の動向視察(中国・大連編)
- 日欧中等教育における木造建築の伝統技術・技能の継承に関する比較研究
 - ーその理念と方法ー
- シンガポールの数学教育を通して次世代の教育を考える



2014年度 海外研修・研究等助成金 応募要綱

助成金交付額	1件当たり最高50万円
対 象 テ ー マ	海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を与え、分かち合う趣旨・内容であること ※左ページに例示したテーマ以外でも、上記に合致する内容であれば幅広く受け付けます。ご不明の際は弊所担当者宛お問い合わせ下さい。
応 募 資 格	静岡県内の小学校、中学校、特別支援学校、および高等学校に常勤する教職員の方で、次の事項のすべてに該当する方を対象とします。 (1) 海外での研修、研究を志す意欲旺盛な方 (2) 原則として年齢50歳以下、勤続3年以上の方 (3) 勤務先学校長の推薦が得られる方 ※なお、各学校において複数名応募いただいても結構です。
助成対象期間	12ヵ月以内（原則として決定通知後6ヵ月以内に研修開始）
応 募 方 法	下記の必要書類を当研究所まで郵送にて提出して下さい。 (1) 助成金交付申請書（所定様式※） (2) 勤務先学校長の推薦書（所定様式※） ※助成金交付申請書および推薦書は、当研究所のホームページよりダウンロードしてご利用下さい。 URL: http://www.srgi.or.jp
採 用 予 定 数	若干名
募 集 締 切 日	2014年5月30日（金） 締切当日消印有効
選 考	(1) 当財団の選考委員会にて審査・選考の上、理事長が決定します。 (2) 選考の結果は、2014年6月中旬（予定）に、申請者・推薦者宛書面にて通知します。

◎交付対象者への注意事項

交 付 方 法	助成金は、原則として一括交付します。
報 告 の 義 務	対象となる研修活動の開始および終了時に、下記の書類を提出していただきます。 (1) 研修開始通知書 (2) 助成金使途報告書・研修報告書 (3) 研修レポート

2013年度
助成対象者 助成内容（研修報告）

ユネスコ文学都市 アイオワ・ サマー・ライティング・ フェスティバルへの 参加を通じて

静岡県立静岡西高等学校 教諭 漆畑祐佳

英語での作文教育技法、及びユネスコ文学都市の共同体としての発展性を学ぶため、第27回アイオワ・サマー・ライティング・フェスティバルに参加した。アイオワ大学生涯学習課の主催であり、77年の伝統をもち、創作において全米1位にランクされているThe Iowa Writers' Workshop（アイオワ大学大学院創作作文学科）と連携している。創始者ペギー・ヒューストンさんによると、一番重要なのは講師の質であり、前年度の受講生の評価が講師にとって最も重きをなしているとのことであった。

1 情熱ある講師による最高のアドバイス

講師たちは、皆教えることに情熱を惜しまない。平日コースでは、午前は日替わりの全体講義がある。シャンリー先生は随想録の書き方を講義し、ラプリー先生はマラソンのような作文訓練の必要性を説いた。それらは後日ポッドキャストで配信された。

午後は、ラジオ番組も担当するジョンソン先生から、絵本や自叙伝、回想録の書き方を学んだ。様々な絵本や回想録の誕生秘話を、直接作家から聞いた話と織り交ぜた講義であった。授業以外でも個人面談をし、生徒個々の多様なニーズに応えていたことは印象的であった。週末コースではボワリエ先生とダーモント先生から志望理由書の書き方などについて学んだ。

アメリカ最難関のThe Iowa Writers' Workshop、小説部門は1,000人以上が受験し合格者は20人前後という、その卒業生でもあり著名な作家でもあるダーモント先生は、「志願者について更に知りたくなるような、人を感動させる志望理由を美しく、正直にそして具体的に書くこと」を情熱を込めて語り、午前2時間、午後3時間と昼休み以外は小休止もなく、受講生一人ひとりのために考えうる最高のアドバイスを与え続けた。

2 ユネスコ文化都市としての活動

アイオワ・シティは2008年にUNESCO City of Literature（ユネスコ文学都市）に認定された。そこでは、文学が教室を出て、地域共同体の中へ溶け込んでいるのが重要なテーマとなっている。

受講生には開講時、トートバックやTシャツ、カフェでのコーヒーが無料となる名札、地元で買い物をするための割引クーポン、ショップ案内の冊子などが配布され、これらを持って街を歩く受講生の姿が目についた。街路の掲示板には、小学生たちの創作した詩がいくつも掲載され、書店にはアイオワ大学の学生たちによるアウトリーチ活動（教育普及活動）の成果が高校生の作品集として販売されていた。

3 研修を終えて

アイオワの作文教育の根源は情熱である。講師たちの人間的な厚みや、出版経験の有無に関わらず、受講生たちの真剣さにも圧倒された。開拓時代からのアイオワの伝統が、自発的な勉学を促すことばの創作教育にも息づいているようだった。この研修を通じて学んだ教える情熱と、受講生の多くの才能に驚かされたことを糧に、英語で発信し世界と繋がる英語の授業を創出して行きたい。

静岡県におけるユネスコ文学都市の誕生も夢見ながら、一つ一つの授業やより多くの人々とのつながりの中に、成果を確実に還元できるように努めていきたい。



クラス講義のようす

お問い合わせ先

一般財団法人 企業経営研究所
(国際交流支援事業 事務局)

〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号

ミシマ・スルガビル4F

TEL:055-981-3033 FAX:055-981-5888

E-Mail:webmaster@srgi.or.jp

URL:<http://www.srgi.or.jp>